

文化遺産を活かした地域活性化事業実施報告書

①都道府県・市区町村名	大津市	②補助事業の種類 (どちらかに「○」)	I	地域の文化遺産次世代継承事業
			II	世界文化遺産活性化事業
③実施計画の名称	大津市世界文化遺産活用地域活性化事業			
④実施計画期間	平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月			
⑤過去の補助事業実績				
平成 23 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業				千円
平成 24 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業				千円
平成 25 年度文化遺産を活かした地域活性化事業				14,903千円
平成 26 年度文化遺産を活かした地域活性化事業				21,810千円
平成 27 年度文化遺産を活かした地域活性化事業				15,000千円
⑥計画の実施状況(概要)				
※平成 28 年度までに実施した計画の実施状況を記載してください。				
<p>① 文化遺産を活かした地域活性化事業として、平成 25 年度及び 26 年度は、「比叡山坂本活性化事業実行委員会」により、25 年度は「里坊の魅力を活かした比叡山坂本地区の活性化事業」、26 年度は「里坊のある門前町」の魅力を活かした比叡山坂本地区の活性化事業」に取り組んだ。同事業では、比叡山延暦寺の麓に位置する坂本地区において、情報発信事業、人材育成事業、普及啓発事業を実施した。</p> <p>② 平成 27 年度は、これらの成果の上に立って、「世界文化遺産活性化事業」として世界文化遺産情報発信人材育成事業、世界文化遺産普及啓発事業に取り組んだ。</p> <p>③ 平成 28 年度は、情報発信・人材育成事業として、スマートフォン・タブレットを利用した多言語文字情報及び音声案内システムの設置、引き続きボランティアガイドの育成、訪日外国人向けのポスター・パンフレットの配布をおこなった。普及啓発事業では、延暦寺での連続セミナー、東京でのフォーラムを実施し、世界遺産としての延暦寺の魅力を広くアピールした。</p>				
⑦事業実施による効果等の検証・分析結果				
※平成 28 年度までの計画の実施により得られた効果や実施以後の状況(人数、理解度、活用状況、人材育成などの指標に基づき、定量的・定性的な効果)を具体的に記載してください。				
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアガイドは、平成 25 年度から活動を開始し、現在 57 名の体制である。平成 28 年度は、受け入れ団体 80 団体、案内人数 1,800 名、ガイド出動数 140 名を目標としていたが、実績は受け入れ団体 146 団体(達成率 182%)、案内人数 2,906 名(達成率 161%)、ガイド出動数 245 名(達成率 175%)と、いずれも目標値を大きく上回る成果をあげることができた。案内を開始した平成 26 年度と比較しても、受け入れ団体数で 1042%増(14 団体⇒146 団体)、案内人数で 538%増(540 名⇒2,906 名)、ガイド出動数で 644%増(38 名⇒245 名)となり、ボランティアガイドへの需要は非常に高いものがある。ガイドのレベルアップを図るために研修会や勉強会を開催しており、世界遺産や延暦寺に対する理解が深まるとともに、地域に対する愛着も醸成されるという、相乗効果を生み出している。 ・外国人に対する情報発信では、関西ツーリストインフォメーションセンターの来訪者の目標を 1 日当り 1,740 人としていたが、120%増の 2,104 人となった。 ・東京で開催したフォーラムは 380 名の定員に対し 253 名で目標の 66%、延暦寺で開催したセミナーは 3 日間で 240 名を定員としていたが、参加者は 199 名で目標の 83%、であった。参加者数は目標値に達しなかったが、参加者の満足度は、フォーラムの 1 部基調講演で 91%、2 部パネルディスカッションで 80%、セミナーで 90%と高かった。東京で開催したフォーラムの参加者が、延暦寺に足を運ばれることを期待する。 				

・今後の展開としては、ボランティアガイドの充実をはかるため、次世代を意識した中学生や地元外国人を取り込み、幅広いニーズの観光客を受け入れられるよう、体制の整備に努めていく。